



ふれあい・語らい・地域と共に
株式会社 グレース
GRACE CO.,LTD

伊那市東春近車屋207 ☎0265-76-2080

虹のかけ橋会・会報 第17号 2025. 9月

神様からいただいた命

大宮五十鈴神社 宮司 白鳥俊明

先日「地域学習の一環として、地の神社について講話をお願いします」とのご依頼を受け、小学校でお話をさせていただきました。

まずは、神社って何だろう？神様って何だろう？そこから話をさせていただくことにしましたが、今の時代、大人でさえ改めて聞かされても「神社？神様？」って考えさせられることと思います。神社は、昔から当たり前のようにあるもの、お正月にお参りに行くところ、年に一度お祭があつて露店が出るところ。では、神様は？

そこで、神社とお寺の違いは分かるかな？というところからお話をさせていただきます。神社も日本のお寺も木に覆われていて森の中にあることが多いですが、遠目には神社とお寺が分かりません。神社の入り口には鳥居があり、お寺の入り口には門や鐘撞堂があり施設的な違いもあります。神社では二礼二拍手一礼をしてお参りますが、お寺では拍手はせずに手を合わせてお参りします。お寺にいるのはお坊さんで、神社にいるのは神主さんです。そして、お寺におまつりされているのは仏様で、神社におまつりされているのが神様です。

続いて神様のお話しです。神様は、私たち人間が生きていく上で無くてはならないもの、有難いもの、尊いもの、それを神様としてお

まつりしているのが神社です。…と。では、私たちが生きていく上で無くてはならないものとは何でしょう？無くてはならないもの、私たちは食事をしなければ命を繋いでいくことが出来ません。毎日食事のときには「いただきます」「いただきます」(ご馳走様でした)感謝の気持ちを表しますが、これは他の動植物の命を頂戴するから「いただきます」であり、その動植物も命を繋いでいくためには太陽の日の光や水が無ければ生きていくことが出来ません。今こそ蛇口をひねれば飲める水が出て、マッチやコンロで簡単に火がつきますが、昔の人はそうはいきません。水を飲むにも、山から流れてきた水を石や土を通して濾過してから沸かして飲む、お湯を沸かすにも山から木を拾ってきて太陽の光で乾燥させ擦り合わせて火をつけて水を沸かししました。ですから昔の人の方が自然に対する感謝の気持ちが強いことが分かりますが、つまりは大自然、太陽・月・山・木・土・石…、それらすべてに神様が宿り神様が司っていると考えてきたのが私たち日本人そして御先祖様です。太陽はアマテラスオオミカミ、月はツクヨミ、山はオオヤマツミ、木はクノチ、土はハニヤスヒコ、石はイシコリドメ。大自然だけではなく、有難くも尊い自然の恵み、水・火・風・力・考える力…水はミズハ

ノメ、火はカグツチ、風はシナトベ、力はタヂカラオ、考える力はヤゴコロオモイカネ…森羅万象総てのものに神様が宿ると考えてきた私たち日本人は、常に感謝の心を忘れない民族ということなのです。「いただきます」「ご馳走様でした」その小さな感謝の気持ちを大きな形で表すのが年に一度の神社の例祭というお祭です。そして忘れてはならないのは、私たちがこうして元気に今の世で暮らしているのも、この世に生を受けたからであり、それはお父さん・お母さんが居たからですが、お父さん・お母さんにもそれぞれにお父さん・お母さん、つまりはお爺さん・お婆さんが居たからで、そのお爺さん・お婆さんにもお父さん・お母さん・お爺さん・お婆さんが居て…単純計算ではありますが十代さかのぼると私たちには千人以上の御先祖様が居て、その千人のうちの誰一人として欠けてしまったとしても自分は生まれていない、そう考えると御先祖様も神様なのであります。大自然・大自然の力そして御先祖様を神様と考え、その神様をおまつりしているのが神社でありますから、日本全国どこへ行っても必ず神社があるのです。

こんな当たり前だけれども、誰からも教えられないお話を、もっとも一つと噛み砕いて、そして神話や地域の歴史そして昔話を織り交ぜながら小学校一年生から六年生まで全校生徒皆さんの前でお話しさせていただきました。どこまで理解していただけたか、いや、何も理解は出来なかったかもしれないが「御先祖様からいただいた命、今を元気に暮らすことが出来ている」「この奇跡」にも感謝しましょう」と締めくくらせていただきました。



本殿の前に設けられた拝殿。平成17年に新築され、土足のまま入り椅子(胡床)に座って参列できる。



拝殿の内部。お祓いやご祈祷のほか、例祭の「浦安の舞」が上段の「幣殿」にて舞われている。

今の時代、普通に当たり前と感じられるようになった神々からの恵みを、いつもとは言いませんが時に感じ感謝しながら、御先祖様から紡ぎいただいた命を大切に一日一日を元気に過ごしていただきたいと願います。

信州駒ヶ根

大宮 五十鈴神社

所在地 駒ヶ根市赤穂二八二七
電話 0265(81)6881

応神天皇39年、尾張國熱田神宮より「熱田大神」の御分霊を迎えて斎き祀る。同42年4月、伊勢國伊勢神宮より「天照皇大神」諏訪大神より建御名方命を迎え相殿に斎き祀り、「伊勢神社」と称した。明治40年6月25日白山社、同41年3月18日、伊勢宮、白鬚社、春日社、八幡社、八剋社、日枝社(山王社)のいわゆる上穂8社を合祀して「大宮五十鈴神社」と称した。

【五十鈴神社 神紋】



天照大御神の御紋。「伊勢神宮」の御紋であり、御分社である当社にも入っている。



熱田神宮の御紋が五七の桐竹であり、御分霊を迎えた当社にも五三の桐の紋が入っている。



諏訪大社の上社・下社の神紋。桐の木がご神木として尊ばれたことから神紋になったとされる。

穏やかな印象の白鳥神官様は私達の素朴な問いにも丁寧に答えて下さいます。葬儀の場では落ち着いた声が空間を包み悲しみの中にも安心感が漂います。(グレーススタッフ)

今年の例祭の宵祭は9月23日

祭りの夜には太い木筒の三國花火の奉納があります。(祈祷は要予約)

県下では神社の祭りに三國花火を奉納するのは南信地区のみ。この花火を五十鈴神社では「三國一」と呼んでいます。



ふれあい・語らい・地域と共に
株式会社 グレース
GRACE CO.,LTD

病院・施設等へのお迎え
葬儀打ち合わせは

24時間365日受付

本社:伊那市東春近車屋207
TEL:0265-76-2080

<https://grace-ja.com>

グレース葬祭

検索



伊那市・辰野町・箕輪町・南箕輪村

0120-88-1409

駒ヶ根市・飯島町・中川村・宮田村

0120-81-1509

虹のホールは上伊那に10施設

上伊那トップクラスの経験と実績

宗教・宗派、規模を問わずさまざまな形式の葬儀を、経験豊富なスタッフがご意向や予算に合わせ柔軟に対応いたします。

年間約1,000件の葬儀施行実績



虹のホール 伊那



虹のホール 花桃



虹のホール 駒ヶ根



虹のホール 花みずき



虹のホール 楓館



虹のホール 高遠



虹のホール 竜西



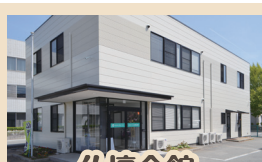
虹のホール 伊南



虹のホール 伊北



虹のホール 辰野



仏壇会館

住所:伊那市狐島4283-1

広くゆったりとした館内に
高品質な仏壇・仏具を豊富
に取り揃え、展示販売して
おります。